

# 曲目解説

研究熱心な各校顧問の選曲により、毎回充実したプログラムで注目されているジョイントコンサート。今回も新作・話題作が満載の熱いプログラムでお送りします。解説も頑張ってお送りします。お楽しみに！

## 各校演奏

### ●ロマンスとスケルツォ

*Romance and Scherzo*

コーエンは作曲家でヴァイオリニスト。第1次大戦後(1918年終戦)には、映画やラジオの音楽制作や、いくつかの学校で音楽を教えていた。その作品は管楽器のソロやアンサンブルが中心で、今回演奏する曲は、学校で教えていた時代に書かれたソロ曲である。1941年作曲。

### ソル・コーエン

*Sol Cohen ( 1891-1988:アメリカ )*

### ●アイガー：頂上への挑戦

*Eiger: Journey to the Summit*

スウェアリンジェンはアメリカの大学で音楽教育学科の教授を務める作曲家である。その立場から、学生による演奏を意識した、誰にでも親しみやすい楽曲が多いのが特徴である。

スイスの名峰アイガー(標高3970m)の北側斜面には、高さ1800mもの切り立った岩がむき出しになった「アイガー北壁」がある。そこは、落石や雪崩、天候の急変など危険と常に隣り合わせの場所で、これに挑んだ多くのクライマーが命を落としてきた。1966年、アメリカ人登山家ジョン・ハーリン2世も犠牲となった。彼には当時9才の息子が居たが、父親の遭難から40年後の2005年、その意思を受け継ぎ、頂上への登頂に挑んだ。そんな実話に基づいて書かれた曲。作曲者はこの物語を音楽でよみがえらせ、感動的な結末を描いた。2007年作曲。

### ジェイムズ・スウェアリンジェン

*James Swearingen ( b.1947:アメリカ )*

### ●アードロス城 - 「ハイランド讃歌組曲」より第1曲 - フィリップ・スパーク

*Ardross Castle*

*Philip Sparke ( b.1951:イギリス )*

スパークは母国イギリスで盛んな金管バンド(金管楽器+打楽器)や、吹奏楽のための曲を数多く手掛けている。2002年に金管バンド曲として、スコットランド(英国北部)のハイランド地方の風物を描いた7曲構成の大作「ハイランド讃歌」を完成させた。このうち3曲を選んで作られた組曲は、2003年に吹奏楽編成の楽譜も出版され、吹奏楽界でも高く評価されている。この地方は地理学的には古い山系で、低い山々が連なり広々とした高地(Highland)を形成しており、美しい景色と、長い歴史で知られている。多くの観光地があるが、この曲に登場するのは、どちらかと言うと人里を離れた場所である。この地方に伝わる素朴で美しい民謡のメロディや、バグパイプの音色、民族色の濃い打楽器群のリズムなどが現代風にアレンジされて曲に組み込まれている。今回は古城を描いた第1曲「アードロス城」を演奏する。

### ●眩い星座になるために…

*To Be Vivid Stars*

### 八木澤教司

*Satoshi Yagisawa ( b.1975:日本 )*

八木澤教司さんは市川市在住の若手作曲家で、ジョイント参加各校の顧問とも親交があり、いつも専門的なアドバイスを頂いている。管弦楽曲、吹奏楽曲、アンサンブル曲など幅広いジャンルで次々と新作を発表しており、創作意欲は衰えを知らない。近年では海外の活動も精力的にこなしている。この曲は、関東地方のある高校の創立50周年を記念して依頼されたもので、「星」をテーマに作曲された。まだまだ未熟である一人ひとりの生徒たちが、様々な経験を積んで成長し、やがて力を合わせながら眩く[まばゆく]輝く星のようになっていく…、という想いが込められている。また「星のように部活を輝かせたい!」、といった生徒たちの想いも反映されている。生徒たちが考えた作品構想案に沿って曲は展開される。2008年作曲。

## ●ファントム・ドウ・ラムール - 幻影 -

天野正道

*Fantome de l'amour*

Masamicz Amano ( b.1957:日本 )

天野正道は大変実績を持った作曲家で、管弦楽などの古典音楽はもちろん、映画、テレビ、CM、アニメ、ゲームに至るまで、あらゆる音楽ジャンルで活躍している。その活動の場は国外にも広く及んでいる。今回演奏する「幻影」は、交響曲第1番「グラール」の第1楽章とのこと。この交響曲は元々独立して作曲された4つの曲をまとめたもので、前回の第22回演奏会で演奏された「エスティロ・デ・エスパーニャ・ポル・ケ？」(どうしてスペイン風なんだ?)はこの交響曲の第2楽章である(後で知りました)。さて、第1楽章「幻影」は、古典的な交響曲の第1楽章でよく使われる「ソナタ形式」で書かれている。ちなみに、ソナタ形式とは、2つの主題を提示する「提示部」-主題を展開する「展開部」-提示部を再現する「再現部」-曲を締めくくる「終結部」(コーダ)の全4部で構成される楽曲形式の1つである。こう書くと、かなり難しい曲のように感じるが、前回演奏された第2楽章と同じく、「愛」の要素を盛り込んだ、天野作品らしい格好良い曲に仕上がっている。なお、この曲は何らかの情景を描写したものではなく、タイトルの「幻影」も、作曲依頼した楽団が後から付けたものらしい。2007年作曲。

## ●光は<sup>そら</sup>大宇に満ちて

田中 賢

*Universe Filled with Light Divine*

Masaru Tanaka ( b.1946:日本 )

田中賢と言えば、「メトセラ」(1988)、「紅炎の鳥」(1992)といった、かつて吹奏楽界でブレイクした作品を懐かしく思い出される吹奏楽ファンも多いだろう。現在は国内の大学で作曲科の教授を務めており、作曲活動も継続しているとのこと。手掛けるジャンルが多岐に渡るため、近年は吹奏楽曲の新作は決して多くはないが、発表される作品はいずれも大変優れたもので、今回演奏する曲も、2007年作曲の比較的最近の作品である。この曲を依頼した楽団が初演を行った際に、田中賢本人が素敵なメッセージを寄せているので、紹介しておきたい。

私たちが住む美しい星「地球」。

光は大宇(そら)から明るく照らし、全ての生命を育み、生かしている。

いつの世にも、光は明るく差し込み、人の心を温かくしてくれる。

太陽の光のように、全てを温かく包み、

心に安らぎを感じていただけたら…という思いで、この作品を書きました。

## ●スクーティン・オン・ハードロック

デイヴィッド・ホールジンガー

- 3つの即興的ジャズ風舞曲 -

David R.Holsinger ( b.1945:アメリカ )

*Scootin' on Hardrock*

ホールジンガーは教会の居住音楽家として活躍する傍ら、優れた吹奏楽曲を数多く手掛け、吹奏楽界で大変権威のあるオストワルド賞を2度受賞(1982/1986)した実績を持つ。独特な雰囲気力強くドラマティックな作風が特徴であるが、今回演奏する曲は、力強い音楽だが、何となくメランコリック(憂鬱)な雰囲気が漂うホールジンガーの異色作である。1999年出版。

タイトルの意味は「ハードロック通りを走り去る」となるが、これは作曲者の住んでいる街に実際にある、通りの名前に由来している。ハードロック通りは、かつて街の中心として栄えていたが、現在では寂れてしまい、近道する時くらいにしか使われなくなってしまったという。この通りを懐かしんで作曲されたジャズ風の音楽で、速-緩-速の3部構成となっており、「3つの即興的ジャズ風舞曲」というサブタイトルも付いている。最後は通りが賑やかだった頃をドライブの効いた音楽で描きながら、エンディングへと向かって突き進んでいく。

### 1年生合同バンド

#### ●英雄の証 - モンスターハンターより - 甲田正人 ( 森田一浩編曲 )

多くのファンを惹きつけてやまないゲーム、「モンスターハンター」シリーズの第1作から使われているテーマ音楽を吹奏楽で演奏します。狩りを告げるような勇壮なホルンで幕開けとなります。2013年出版。

## 1年生合同バンド

### ●輝く日への前奏曲

*A Prelude to the Shining Day*

後藤 洋

Yo Goto ( b.1956:日本 )

後藤洋は吹奏楽と音楽教育の分野を中心に、作曲・編曲家、音楽評論家、研究者として活躍している。現在はアメリカに拠点を置き、日本とアメリカを往復しながら、作曲活動と吹奏楽教育の研究を続けている。全米吹奏楽指導者協会(ABA)が選定する、吹奏楽界で大変権威のあるオストワルド賞を、日本人で初めて2011年に受賞するなど、国際的に高く評価されている。

この曲は、コンサートや行事の開幕のための大規模なファンファーレとして構想されたもので、大きく3つの部分に分けられる。冒頭部の金管楽器の音響的な立体感、中間部の広々としたメロディ、これらが一体化した終結部。短いながらも見事な曲である。1992年作曲。

### ●オセロ

*Othello*

アルフレッド・リード

Alfred Reed ( 1921-1995:アメリカ )

吹奏楽界の巨匠、リード博士が他界したのは2005年。生涯で多くの優れた吹奏楽曲を作曲、近代吹奏楽の発展への貢献は計り知れない。リードの遺した膨大な作品のなかで、ひととき注目されるのが、16世紀後半～17世紀初めに活躍した劇作家、シェイクスピアの文学作品を題材にした作品群であろう。今回演奏するのはシェイクスピアの四大悲劇の1つ「オセロ」の情景を描いた曲である。物語はキプロスの将軍オセロが、数々の功績を残しながら、部下の陰謀によって愛する妻デズデモーナを殺し、最後は自分も自殺するという悲劇である。リードはこの物語を全5楽章の音楽で描いた。今回は3つの楽章(★印)を演奏する。1977年作曲。

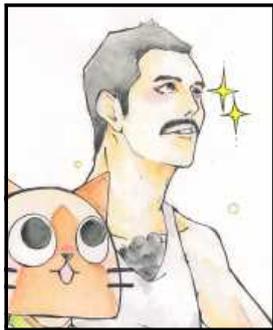
- I. 前奏曲(ベニス) … ベニスの元老院がオセロを司令官に任命。オセロの権力の強さの表現。
- ★II. 朝の音楽(キプロス) … オセロとデズデモーナの部屋の窓の下で、旅の吟遊詩人が歌う朝の歌。
- ★III. オセロとデズデモーナ … 情熱的かつ優しいオセロとデズデモーナの間にある愛の感情の表現。
- ★IV. 廷臣たちの入場 … 激怒と嫉妬で半狂乱となったオセロのもとに、廷臣たちが訪れる。
- V. デズデモーナの死、終曲… 部下の陰謀により妻を殺したオセロが自殺する場面。悲劇の結末。

### ●ボヘミアン・ラプソディ

*Bohemian Rhapsody*

F. マーキュリー(天野正道編曲)

Freddie Mercury ( 1946-1991:イギリス )



1970年代のイギリスを代表するロックバンド、クイーンの代表的なヒット曲である。世界最高のヴォーカリストとして名高い、フレディ・マーキュリーの1975年の作品で、原曲はアカペラのコーラスに始まり、バラードへと展開し、オペラ風からハードロックに至るといって壮大な構成である。天野正道(前記参照)の手により、出来るかぎり原曲の雰囲気壊さず吹奏楽で演奏出来るように編曲された。2006年出版。

ちなみに、今回の演奏会ポスターの挿絵は、ヒゲにタンクトップでお馴染みのフレディが描かれた。左下は「モンハン」のキャラクター。

### ●インカの聖なる溪谷「ウルバンバ」

*Urubamba - The Sacred Valley of the Incas*

八木澤教司

Satoshi Yagisawa ( b.1975:日本 )

八木澤教司さんの紹介は前記参照のこと。新作を書くにあたり、「風」をキーワードとして考えた八木澤さんは、かつて取材旅行で訪れた南米アンデスの高地、古代文明インカ帝国の廃墟「マチュピチュ」の近くにある、インカの聖なる溪谷「ウルバンバ」をテーマに選んだ。(ウルバンバ川の尾根にマチュピチュがある)。そこは壮大な山々に囲まれた溪谷で、様々な角度から風が吹き込む場所だという。インカの人々の生活や、ウルバンバの山々に囲まれた壮大な風景が、そこに吹き込む風のエネルギーと共に描かれた曲である。2013年初演の新作。

## 2年生合同バンド

### ●レッド・マシーン

*The Red Machine*

グレイアムは、母国イギリスで盛んな金管バンド(金管楽器+打楽器)を中心に作曲活動を行っており、その多くが吹奏楽編成にも書き換えられて重要なレパートリーとなっている。しかし、高難度の曲が多く、高い演奏技術と充実した編成が揃わないと、演奏は困難である。

イギリス王室、バッキンガム宮殿と言え…。真っ赤な制服を着て外周警護する近衛兵を思い浮かべる方も多いただろう。その交代儀式は観光の名物にもなっている。この近衛連隊の1つにコールドストリーム近衛連隊があり、その中の音楽隊は高い演奏技術で定評がある。この曲のタイトル「レッド・マシーン」とは、真っ赤な制服のコールドストリーム近衛連隊バンドによる、バッキンガム宮殿でのパレードが、機械のように正確で美しいという意味でつけられた。「速い-遅い-速い」の3部構成から成り、速い部分の細かなリズムや、中間部の緩やかで美しいメロディに注目である。かなりの高難度の曲。これは手強い！。2004年作曲。

### ピーター・グレイアム

*Peter Graham ( b.1958:イギリス )*

### ●エクストリーム・メイク・オーヴァー

- チャイコフスキーの主題による変容 -

*Extreme Make-Over*

デメイは作曲・編曲活動のほか、指揮者、トロンボーン奏者としても知られ、楽譜出版社の経営も行っている。吹奏楽曲も多く手掛けている。この曲は「チャイコフスキーの主題による変容」という副題を持つが、これは「アンダンテ・カンタービレ」のタイトルで知られる、チャイコフスキーの「弦楽四重奏曲第1番ニ長調」の第2楽章の旋律(ロシア民謡に基づく)を主題として、交響曲第4番、交響曲第6番、幻想序曲「ロメオとジュリエット」、さらにはエンディングでは序曲「1812年」からの断片を引用しながら、さまざまな形に変容することによる。途中のガムラン風のマリンバの動きも見逃せない。最後は楽器群が鳴り響き合いながら、祝祭的な終結部を迎え曲を閉じる。かなりの高難度の曲なのだが、原曲はブラスバンド(金管楽器+打楽器)で、2005年のヨーロッパ・ブラスバンド選手権大会の課題曲だったというのだから驚きである。2006年には吹奏楽版も作られ、多くの団体が演奏に挑戦している。

### ヨハン・デメイ

*Johan de Meij ( b.1953:オランダ )*

### ●サガ・マリーニャ

- ミュージカル「サタンの種」より第2組曲 -

*Saga Maligna*

ベルギーの作曲家アッペルモントは、1998年に母国のレメンス音楽院を卒業後、本格的に作曲家として活動を始めた。手掛けるジャンルは多彩だが、吹奏楽のレパートリーが豊富で、日本でも演奏される機会が多い。そんな中で注目されるのが、2002年初演の全編吹奏楽によるミュージカル「Zaad van Satan」(サタンの種)だろう。魔女狩りの嵐が吹き荒れる中世ヨーロッパが舞台で、7名のソリスト、合唱団、吹奏楽団による18曲構成の大作である。2010年秋には日本初演も行われたが、この作品の完全収録DVDは見たことがない。しかし指揮者J.コベルの活躍を収めた市販DVDに、海外での熱演の一部が収録されており、これは貴重である。

このミュージカル音楽を編集して2つの組曲が作られた。第1組曲「サガ・キャンディダ」-魔女狩りの7つの印象-(2002)が大変好評であったことから、2007年、同じ手法で今回演奏する第2組曲「サガ・マリーニャ」が作られた。タイトルは「不吉な魔女」といった意味を含むようだが、情報が少なく詳細は不明である。なお、原作の「サタンの種」の物語とは、あまり関係なく曲が選ばれているため、細かなことは気にせず、純粋に音楽としてお楽しみ頂くのが良いだろう。ミュージカル曲が原曲なので、思わず口ずさみたくなるメロディが次々と現れて楽しい曲である。…が、2年バンドの部員たちにとっては、体力勝負の結構ハードな曲である。まさにメインに相応しい選曲。これぞジョイント！。この演奏は聴き逃せない！

### ベルト・アッペルモント

*Bert Appermont ( b.1973:ベルギー )*